



★それぞれの動物がいる場所はウラの地図をごらんください

①活発・お茶目なニューフェイス

— ニシゴリラ —



去年秋、恩賜上野動物園から転入して来たニシゴリラ、モモカ。

12歳と若いモモカはたいへん活発。柔軟な動きで屋外展示場の岩場をスルスルと下り、大きなストライドで崖を登ります。心疾患を予防する為、野菜中心に組まれた食事に対して旺盛

な食欲を見せ、好き嫌いなくよく食べます。好物の殻付き落花生は、上手に殻をむいて食べるそうです。一見小柄に見えますが、体重は推定で100kg。これはニシゴリラ女子の標準体重といえそうです。

ゴリラ柄の毛布をまとい、お茶目で愛嬌たっぷりなモモカは、飼育員さんだけに見せる「頑固な一面」もあるようです。(ozv もも)

②おだやかに見えるが牙はすごい

— マントヒヒ —

昨年、日本モンキーセンターからマントヒヒの母子が来園しました。マントヒヒという名前は知られているものの、会ったことのある人は少ないのでは。

オスは肩から背中にかけて白く長い毛におおわれてマントを着ているように見えるのでこの名前がつけました。頭の周りを包む毛も白くフサフサとしてきれいです。一方メスの方は体格がオスの半分ほどで毛も茶色く地味。生息地はアフリカ北東部とアラビア半島南西部の乾燥地帯で、岩山や草地などで暮らしています。



オスのクフはクレオの息子で、体は大きいけれど気が小さいところがあり、部屋には母親に先に入ってもらって安全を確かめてから入ったりするそうです。ときどき興奮すると犬のような声で吠えることがあります。長い顔や、オスとメスの体格差が大きいところがマンドリルと似ていますね。(ozv 金)

③優雅な姿で 気が荒い

— ホオジロカンムリヅル —

主にアフリカ南部の草原、湿地帯に暮らすツルの仲間、寿命は20年～25年。白い頬と頬に麦わらを束ねたような冠羽を持っていることが名前の由来です。ツルの仲間には珍しく木の枝をつかむことができます。(ほかのツルは木にとまるということはしません。)

当園の個体は優雅な姿に反してとても気が強く、オスのダチョウとはライバル同士。オスダチョウが近付くと羽を広げて甲高いクワークワァーという鳴き声を出して威嚇し、更に近づくと前蹴りで攻撃。飼育員さんによれば、大概はダチョウが離れていき、ホオジロカンムリヅルに軍配が上がるそうです。朝、飼育小屋を出るときと夕方に戻るときに、羽根を広げてよく鳴くそうです。(ozv 加)

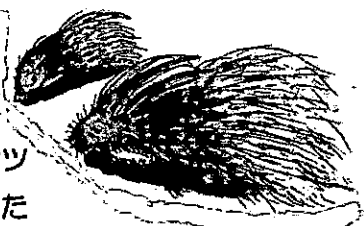


④母子3頭で寄り添う

— アフリカタテガミヤマアラシ —

野生ではアフリカ中部～北部のサバンナや森林に生息、夜行性。カピバラに近いゲッ歯目。展示場の3頭は母親のホルンと2頭の息子たちモクとレンです。父親のアマンダとメスのミクニは飼育室にいます。モクとレンは2025年7月生まれ。誕生花から命名されました。

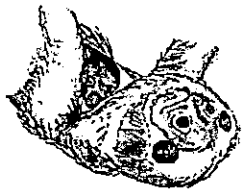
成長すると身体のハリは約3万本になるとか。ハリは長さ30cm、直径1cmになるものもあり、アルミ板をも突き刺すそうです。野生では植物の根や皮を食べていますが、当園ではサツマイモ、リンゴ、ニンジン、キャベツ等が与えられ、とりわけサツマイモが好物です。識別のため尾に動物用カラスプレーで、モクは青、レンは緑と色分けされています。健康のパロメーターであるフンは、展示場の右隅にあり楕円形です。(ozv Y)



⑥バードホールはナマケモノの楽園

— フタユビナマケモノ —

4本の足の曲がったツメを枝などに引っかけてぶら下がり、眠るのも食べるのもそのかっこうのまま。ト



イレは7日に1度だけ、そっと地上に降りて用を済ませたらまたすぐ木に登ってぶら下がる。フタユビナマケモノのライフスタイルは、ほにゅう類の中では同

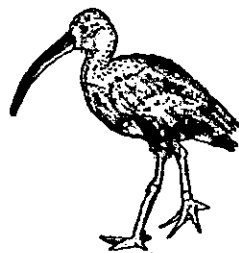
じ「ぶら下がり仲間」のコウモリに負けず劣らずユニークです。

そんなナマケモノにとって動物公園は居心地がいいのか、動物科学館にいる6頭のうち4頭は当園で生まれています。夜行性動物舎にいるのは1991年生まれのメス。ほかの5頭はバードホールで暮らしており、今年1月に生まれた赤ちゃんは母親といっしょにいます。午後2:30頃のスコールのときが見つけやすいです。

⑥鮮やかな朱色が目印のトキの仲間

— ショウジョウトキ —

ショウジョウトキは、オキアミやフラミンゴ用のエサを食べることで、朱色を保っています。トキ用のエサと魚も食べ、ワカサギはくちばしの中で転がすように丸呑みし、ワカサギより大きなアジは、細長く曲がったくちばしでついでに一部を食べます。下に降りてきているときはエサを食べることが多いので注目してみてください。エサが欲しいときは鳴くこともあります。くちばしは、野生では泥の中の生き物を探すことに適しています。



当園には、オスとメスが一羽ずついて、羽の色は違いがありません。オスがメスより大きいので、並んだときや近くにいるときに比べてみてください。また、夜は柵の上で2羽一緒に過ごしていることがよくあるそうです。(czv tgc)

★ボランティアが毎月第2、第4日曜にご家族で参加できるクイズ形式の動物ガイド「ZOOボラ・クイズ・DEガイド」をしています。当日園内放送でお知らせしますので、必ずご参加ください。

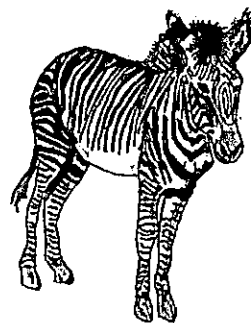
★それぞれの動物がいる場所は下の地図をごらんください

⑦絶滅が心配される 美しい動物

— グレビーシマウマ —

シマウマにはグレビー・サバンナ・ヤマシマウマの3種があり、当園にはグレビーとサバンナの2種がいます。

グレビーシマウマの特徴は①最大の体格(350~450kg)②縞模様の幅が狭く数が多く(約80本)はっきりしている(サバンナシマウマは約25~30本)③大きな耳は先端が丸い。この特徴から「最も美しいシマウマ」といわれ、毛皮目的の乱獲・密猟と環境破壊などの影響で生息数は大きく減少し、現在では2,000頭位といわれ絶滅危惧種「EN」となっています。



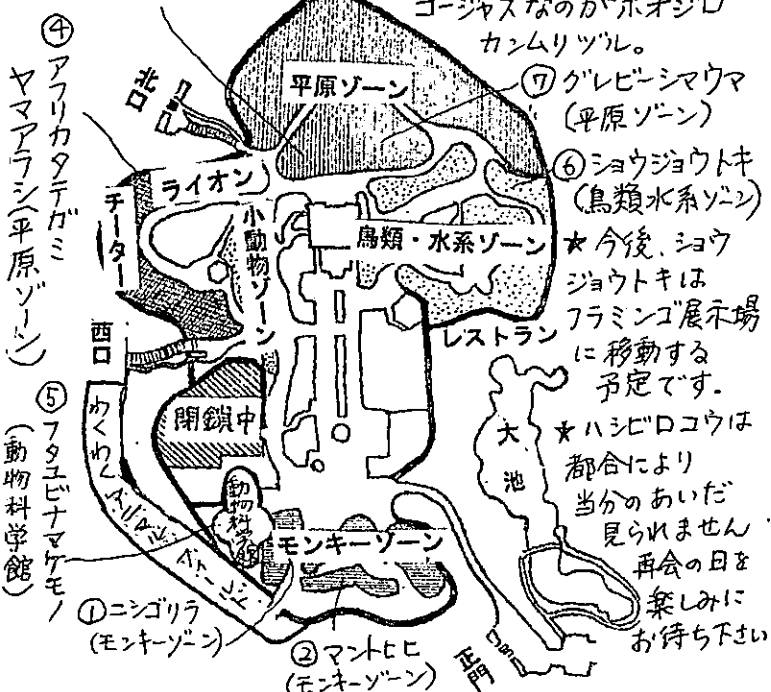
国内での飼育園は8園で15頭だけで、当園ではオスのライムが3月に死亡してしまい、メスのキャンディーだけになりました。天気のいい日には地面に寝転んで眠っている姿が見られますが、立ったまま片方の後ろ足を少し上げている時も「立ち寝」しています。(czvN)

国内での飼育園は8園で15頭だけで、当園ではオスのライムが3月に死亡してしまい、メスのキャンディーだけになりました。天気のいい日には地面に寝転んで眠っている姿が見られますが、立ったまま片方の後ろ足を少し上げている時も「立ち寝」しています。(czvN)

★動物イラスト: czv Kana

③ホオジロカンムリツル

平原ゾーンの山の方にダチョウ、シタツガ、ハゴロモツルといっしょにいます。シンプのしなのがハゴロモツル、ゴージャスなのがホオジロカンムリツル。



★ゴリラとチンパンジーは外の展示場にいないときは動物科学館に入って左奥の室内展示場で見られるかもしれません